



私ガなぜ、 写真に興味を持ったガ



〈サロン・あべの〉10月の出会い

きつかけ

平成15年10月18日(土)、〈サロン・あべの〉10月の出会いは、育徳コミュニティセンター2階研修室で、関市三さん(大阪市住之江区身体障害者団体協議会写真教室)写真をお迎えして「私ガなぜ、写真に興味を持ったか」というテーマでお話を伺いました。

最初は日の光を当てると写真が出来ると日光写真に興味を持った。絵画は時間がかかりすぎ、自分には短かいので写真の方が手つとり早いと思ひ、ずるずると写真の方へ入っていった。自分が初めて手にした写真機は、フルートレンズ社の蛇腹式カメラ。このカメラで大阪城公

園で釣りをしている人を撮っていたら、プロの写真家の木村伊兵衛氏に誉められたことがあった。その後、木村氏の写真に近づこうと試みて何度も現場に通ひ撮っていたが、相手はプロ。1日や2日は撮れない、最低3年ぐらいかけないと、完全な、納得のいく作品は出来ないことが解った。

木村伊兵衛氏は、家がとても裕福でドイツに留学した時、兄にライカのカメラを買ってもらった。ある時偶然、事件に遭遇し、思い切り現場の写真を撮った。それを家で本を見ながら現像をして、新聞社に持っていくと採用された。これを機会に日本に帰国して、写真のスタジオを開設した。当時、写真家は少なく、色々な写真を撮って雑誌などにも載せ、有名になっていった。自分もついていこうと思つたが経済的についていけず諦めた。

組み写真

その頃、ユージンズミスという人が九州の水俣病を写真で、初めて世界に紹介した。それを見て、写真には人に訴える力があることを知る。それで言語障害のある自分は写真で、自分の感情を伝えていこうと考えた。

写真は1枚でも自分の思いを表現できるが、何枚かの組み写真にすると、奥行きのある幅の広い多くの表現方法ができる。それを人がどのように見てくれるかということも楽しみ。

自分の場合、バレンタインの時、チヨコトリュフを作る場面を撮る機会があった。チヨコを練っている姿は、泥んこ遊びにも似ているので、どういう人がどういう状況で作っているかを頭に入れてシャッターを切るこ

とを考えたという。見せられた写真には、楽しそうな顔をした男性が練り棒とチヨコの入ったボールをしっかりと持っていた。そして、その肘の後ろに車いすの押し手が少しのぞいていた。

写真教室

現在は、住之江区身体障害者団体協議会の写真教室に入っている。90年前、大阪に浪速クラブが出来た。写真クラブとしては最古で、今の写真教室はその系統を引いている。石畳の写真「露地」は、浪速クラブの時の作品。年1回、展覧会に参加している。

レンズを通して

写真は一つの記録。その時々
の社会を映す。しかし、記録の中にも芸術性がある。人の心を

映し出す芸術というものは、作者が自分の頭で考えて咀嚼して、それを表現したものが芸術だと思ふ。そういう記録写真を撮る。その記録から離れて芸術となる。悲しみや喜びを表現する。例えば、ムンクの「叫び」の絵。作者の考えとはかなり離れて若者の人気を得た。写真の場合もこれに近いものがある。陶芸をしている人の写真を撮る場合、これも記録に違いないが人の心にどういう風に響いていくか、見る人がどういふ感情で受け止めていくか。レンズを通して表現できる自分の思い、それを大切にしていきたい。

参加者に感想を聞きました

☆デジタルカメラが普及して
く中、昔のカメラの良さも再認識した。大切にしたい。

☆カメラとは、40年もの付き合い。感性を磨いて癒されたり、癒したりする写真を撮りたい。
☆関さんとは昔からのお知り合い。だけどこれほど深くカメラに興味をもっていたとは知らなかった。
年季の入った蛇腹式カメラや二眼レフカメラを見せていただきました。これらのカメラは、今も現役とのこと。また、アルバムやパネル写真など多くの作品も見せていただき、感性の豊かさの一端を知ることが出来ました。カメラを趣味にされている方のうんちくのあるところを披露された(サロン・あべの)10月の出会いでもありました。

○

お持ちいただいた愛用のカメラや作品を紙面でお目にかけれないのが残念です。
参加者12名(山村貴司)

写真は楽しい



濱本浩喜

とも以前の私のように躊躇しているのかなと思っっています。

季節ごとに場所やテーマが変わります。

その時々に関わり合わせを入れ、「今度の所は階段が多いようですが・・・」とか聞くと、顔見知りの店員さんは「いやー、参加してくださいよー」と快く誘ってくれます。ただひとつの条件は誰か一人付き添いを付けてほしいということ。私はフィルム交換やレンズ交換がスムーズに出来ないから、いつも付いて来てもらっています。

私が本格的に写真撮影に興味をもったのは、2年ほど前からです。心齋橋の「カメラのナニワ」でカメラを買い、その時介助してくれた店員さんの愛想が良く、通っている内に撮影会の話が聞きました。車いすでも参加出来るのか聞いてみると、「そんな、気にせんと参加してみては・・・」と言われました。この言葉に押されて参加し始めました。毎回50人〜100人くらいの人が参加していますが、車いすは私一人です。こういう集まりがあるのを知らないのか、それ

常者・障害者の隔たりがなく、出来上がりの作品だけが勝負。障害は関係ないと思えます。

カメラ本体の技術が進んでいるから、その人に合った扱いがしやすくなっています。友人はカメラを両手で抱えて、口でシャッターを切る工夫（レリーズのようなもの）をしています。その友人と京都の舞妓さんを撮りに行きました。きれいだった！

もちろん参加費は毎回要ります。現地までの交通費も自己負担ですが、親しくなったモデルさんとメール交換をしたり、おまけの楽しみがあります。撮影会の作品は「ナニワ」の館内でコンテストをして展示されます。私は初参加してから3回目くらいに初めて入選しました。その後も何回か入選しています。障害のある人にもっと参加してほしいと思います。目が肥えるし、一般の参加者の人も自然に手伝ってくれたりして、仲間意識が生まれて来ます。共通の話題で盛り上がる時もあります。作品には健

私の工夫は、普通のカメラを固定するのに一般の人は三脚を使いますが、その三脚を車いすの肘掛の所に差し込めるようにしていることです。カメラは固定され、利き手の左手でシャッターを操作します。これは、車いすの業者さんがカメラに詳しくて、私に応じた操作ができるように作ってくれました。ちなみにその業者さんは、生野区の「山口テック」です。車いす改造の業者さんですから、いろいろと考えてくれるので力強い味方です。

皆さん、写真は楽しいですよ。もつと気軽にカメラに興味をもってほしいと思います。撮影会にも参加しませんか。

(談)

誰でも参加できる場所へ

第18回

収穫の秋、移ろいの秋

林典生

来たのだなあと感じます。

園芸にとつて秋はまさに収穫の秋であり、移ろいの秋を感じる事が出来ます。これは生き物というのは成長の時間があり、成熟の時間があることを意味します。

植物の実で果物や野菜のように動物に食べられることにより子孫を残し、カエデやタンポポのように風に飛ばされることで子孫を残しています。

もし、よろしければ、身近なところで、いろんな実を探してみると結構面白いものが転がっています。ちなみに私自身、一番面白い実はレタスの実です。

レタスはキク科で、その花はヒマワリの花に似ていて、黄色の花びら(厳密に言うとう違うのですが)は外側が白色で内側が黄色の2色の輪を描いている状態です。

タンポポの実から綿帽子(これも本当は別の言い方がありますが)を取り除いた細長い実が取れます。

植物は成長の営みを続けているのです。要するに、花は人を引きつけるためのものではなく、あらゆる生き物を引きつけるために咲いているのです。そしてまた、イネの

花のように生き物を引きつけるのではなく、自然の摂理の中に生じる風を引きつけているものもあります。

このように人間と植物とは長い付き合いで、切つても切れない関係にあります。身近な植物の生活史を見たり、感じたりする中で自分たちの人生を振り返ることもあります。

植物と人間との関係を見ていくと結構面白いのですが、この話は「サロン・あべの紙」にコラムを書いておられる山口康二郎先生にお任せしたいと思います。余談ですが、山口先生のごことは、私がこのコラムを書く前から存じておりまして、「植物あれこれ」で「旧通信病院の話」を拝見したとき、以前、植物と人間との関わりについてのお話を伺ったことが懐かしく思い出されました。

次回からはまた、龍谷大学と八幡市生涯学習センターが共催するコミュニティガーデンづくりをご紹介します予定ですが、八幡市の広報誌にも掲載されたにもかかわらず、講座に応募してくる人数が少ないため、講座が開設できるかどうか微妙な状態です。この結果については次回にご報告いたします。

つい最近まで、冷夏と言われながら蒸し暑い日々が続いてきましたが、ようやく涼しくなったと思う間もなく、急に風が寒く感じる日々が続いております。

久しぶりに八幡市のコミュニティガーデンを訪問すると、7月にいっばい実がなっていたナスが、9月になると夏休みから解放されて再びナスの花が咲き、実をつけていました。

ナス自体はインド原産で、日中の気温が高く、夜の温度が低いと花が咲き、実をつける性質を持っているので、夏ナスや秋ナスが出来るのですが、この風景を見ると秋が

なんだか急に寒くなってきたと思ったら、もう11月である。暦の上では8日が「立冬」だから冬はすぐそこまで来ている。

11月のことを霜月ともいうが、俳句の季語では12月を指す。実際には11月に入ると、霜が降りるので11月を霜月といった方が相応しいような気がする。寒さが一段ときびしくなり、晴天無風の一夜が明けると、木々の梢や地上一面が真っ白になる。いわゆる寒気に水蒸気が結晶したものを霜という。毎年この頃になると、私は母や姉に手を持ってもらって霜で白くなった道路を踏みしめながら通学していたことを思い出す。

ところで毎年9月から10月にかけて森や田畑でモズが飛んでいるのをよく見

かける。モズは他の鳥や動物の鳴き声をまねるので、ユニークな鳥として知られている。「モズの高鳴き75日」という古諺がある。これはモズは秋から冬に雌雄

別々になわばりを張り、その宣言として高い木の梢でおよそ75日間にわたって鋭い声で鳴き、鳴き終わるとそろそろ霜が降り、本格的な冬が訪れるという意味である。

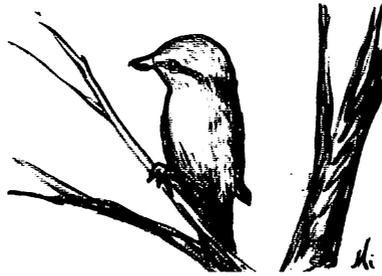
昔の人は、霜は露の凍ったものと考えたり草木を凋落させるものだと言っている。そしてまた霜は夜が明けて

朝日が昇ると、家の屋根や軒先から霜雫として落ちてくる。この霜雫の音がまるで話し声のように聞こえるので「霜の声」と表現している。いずれにしても昔の人はすばらしいたとえ方をするものだと改めて感動した。

晴れのち晴れ 62

霜

稲垣 恵雄



サロンの

絵はがき

5枚1組 ¥180

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力をお願いします。

落胆の価値



何かを望みながらも、それを手にできない落胆。それは苦しい体験だが、そこには価値が隠されていることがある。

たとえば美術館にいらるとしよう。一人目の人は絵を前にして感動し、我を忘れてい

る。二人目の人は同じ絵の前を談笑しながら通り過ぎる。絵を理解できなかったからである。そして、三人目の人は落胆している。絵を理解できなかった自分に失望しているのである。

らされても自分に見えなければ入ってみたいとも思わないだろう。

では、価値ある世界の存在に気づかない人は、そこに加わることができない不運も嘆かないだろうから、心おだやかな日々を送っているのかというと、そういうわけでもない。このような人々に覆いかぶさるのは退屈と、おそらく人々への軽蔑の念だろう。

二人目の人と三人目の人は、絵を理解できなかったことでは同じだが、どちらが幸福そうに見えるかというと、言うまでもなく、絵を前にして何も感じなかった二人目だろう。笑っているからである。しかし、どちらが恵まれているかというと三人目かもしれない。少なくとも三人目の人は、二人目の人が感じない価値がそこにあると気づいていたのだから。一見、幸福そうに見えて実はそうでもないという例がここにある。自分の目の前に素晴らしい世界がある。しかし、そこに入るだけの力がないと感じる人は自分の非力を嘆き、場合によっては絶望すら感じるかもしれない。一方、その世界が見えない人は、その世界に入ることができなくても平気である。そんな世界があるとも知らないし、あると知

彼らは、つまらない単調な灰色の日常の繰り返し返しのなかで、欠伸（あくび）をしているのである。誰もかれもが下等な動物か何かのように忍従の生活を強いられているように見える。ただ自分だけが、あまりに生の充溢を体験しているように思え、この世界に独り、耐え切れないでいる勇者のように映（うつ）る。日々のなかで苛立つ人のなかには、このような思いで周囲に刺（とげ）を飛ばす人もいるのである。

退屈しながら軽蔑する毎日があり、一方で、憧れとそれに手が届かない落胆の日々がある。どちらかを選ばなければならぬとしたら、私は後のほうを選びたい。軽蔑は自己を尊び、落胆はその自己を低めるものかもしれないが、出口のない退屈は人の心を腐らせ

受賞しました

サロン活動を始めていろいろな言葉を知りました。障害者の社会参加やノーマライゼーションなどは、「障害を持つ人でも社会に入っていいですよ」と言っているような気がしました。また、Q・O・Lの言葉を聞いた時は、障害があっても生活の質は向上していく可能性を知りました。そして、最近と共に生きる地域社会、誰もが安心して暮らせる街づくりという言葉をよく耳にします。安全な暮らしと安心して暮らせる地域を支え得るのは、老若男女や障害の有る無しに関わりなく地域に住み続けている人たちだと思います。お互いが認め合い、助け合える地域社会であってほしい、それにはお互いを知ることから、と始めたサロン活動は今年18年目に入りました。20周年には、「何か記念になることをしたいね」と話をしていたところ、10月16日、大阪国際交流センターで開催された大阪市社会福祉大会で「地域福祉推進功労者表彰」をボランティア部門で受賞しました。これまでご支援、ご協力賜りました多くの皆さまの温かいお心があればこそその受賞と感謝申し上げますと共に、思いがけなくいただいたご褒美に喜びをかみしめています。(け)

.....ききみみずきん

る。そして腐敗した自負心ほど嫌な臭いがするものはない。

届かないところにある葡萄(ぶどう)を

すっばいものだと思う狐の話がイソップ物語にあったが、同様の過ちをしてはならないと思う。自分が理解できないものを、理解できないからといって蔑(さげす)んではならない。わからないものに向かいあったとき、わからない自分が愚かなのか、わからないことをしている相手が間違っているのか、その二者

択一を迫られているように思うから、多くの人は自分には理解できないものを否定するだろう。

しかし、それを否定してしまつては、本当に愚かな人となつてしまう。愚かな人とは自分の愚かさを認めない人のことだからである。逆にいえば、自分に理解できないことを認め、愚かなことを受け入れれば、もはやその人は愚かではない。自己の領域の届かないところに価値を認め、憧れをもってそこに

なろうとするなら、落胆にもまた価値があると言ふべきだろう。(知)

●
ありがとうございました。

カンバ、チケット・お茶菓子のご寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。(敬称略・順不同)
岡賀寿子、岡知史、奥田真祐美、K・R、関市三、その他の方々。



植物あれこれ

58

山口康二郎

植物に学ぶ

結実

埼玉県越谷市 小野光子

全ての種が芽を出せるわけではないんだな
全ての芽が木になれるわけではないんだな
草花を育てていてふと 教えられること
あらわれるものだけが全てではないのだ
地表に出られなかったものは土に還り
一輪の花 一本の木をいかす糧となるだろう

美しい結実は いつも支えられているのだ
無数のちからに 木も花も そして人間も

これはある新聞の投稿詩です。この詩に出会ってハッと胸を突かれました。日頃、何気なく種を播いて、発芽しない種に思い



を寄せたことがあったかと、自分に問うてみました。ノーです。しかも不発芽種が、肥やしとなって芽を出した苗を育てていることに思いを致したことはありませんでした。

人は簡単に、花を手折り、安易に木を切

る。しかしその花や木がどのように育って来たかに思いを巡らせることは滅多にありません。

今、正に実りの秋、ひとつ一つの果実を感謝しながら戴かねばなりません。私たち人間は植物に依存しているということを肝に銘じながら・・・

ふと自分を振り返ってみて、多くの人に支えられてここまで来れたことに、感謝を忘れていないかを問い直している昨今です。

サロンの

一筆箋

一冊一〇〇枚綴 一五〇円

美智子のこんな話

岸田美智子

病院通いは本当に疲れるなあ

ここ2カ月間ぐらい私は珍しく、あつちこつちの病院巡りを続ける日々でした。まず、眩暈に始まり、耳鳴り、味覚異常などが出てきました。眩暈は、シーソーに乗っているような、酔いしているような、とても気持ち悪く恐怖でした。車いすに座っていることも恐くて出来づらいう状況でした。味覚異常は何を食べても塩辛く感じます。そして、これらの症状は今は無くなったとは言いつれませんがほとんど感じられなくなりました。

でも、あつちこつちの病院でMRIを撮ったり、いろいろな検査をしていただきました。特にMRIは私にとつては、とても忘れられない体験の一つになったようです。私は脳性マヒなので、その特徴である緊張がある

のでじつと静止することが出来ません。ところがMRIの撮影中は15分ぐらい仰向けに寝転んで頭をびくとも動かさないことが要求されま

す。顔の部分だけお面のような物が降りてきて、顔と頭を押さえる状態になるのですが、それでも私の首は緊張のためピリピリ動いてしまいます。MRI担当の技師さんが私の首を押さえつけてくれたのですが、それでもピクピクよけいに動いてしまいます。私は途中でドーム型のところに入って行くのですが、「やめてくれー」と叫びそうになりながら涙が出てしまいました。その技師さんも気の毒に、汗びっしょりになってがんばってくれたと思います。無駄な努力だったわけですが、結果は撮ることが出来たのですが、やはり微妙に動いていて写っていない部分が多くあり、細かい所までの検査をしたいのなら一日入院して全身麻酔をかけてやらないとダメだと言われました。

私のような脳性マヒの方でこのような体験をされた方は多いのではないのでしょうか。MRIって本当に何の痛みもありませんが、その精神的な苦痛は健常者の方でも同じではないかと思えます。まるで生き埋めにされているような恐怖でした。そして、あの技師さんが何度も何度も叫んでいた「お願いだからじつとしていて」という声が今も私の耳に残っています。このようにいろいろ検査をしましたが、私の症状の原因はやっぱり解らざじまいでした。その後も目が霞んだりしてきていることや、いろいろな症状が出て、病院巡りはまだまだ続きましたが、その体験は次回に書いてみたいと思います。

このような調子なので講師依頼やピアカウンセリングは、すべてお断りしています。その変わりに気分の良い日はなるべく人の話を私が聞きに行こうと思っています。

その一つ、朝日新聞主催の「好きな街に住みたいねん」シンポジウムで、お話を伺ったNPO大阪精神医療人権センター事務局長・山本深雪さんの文章にとっても感動し、惹きつけられました。その一部を紹介させていただきます。皆さんも味わってみてください。

お知らせ

<サロン・あべの>12月の出会い

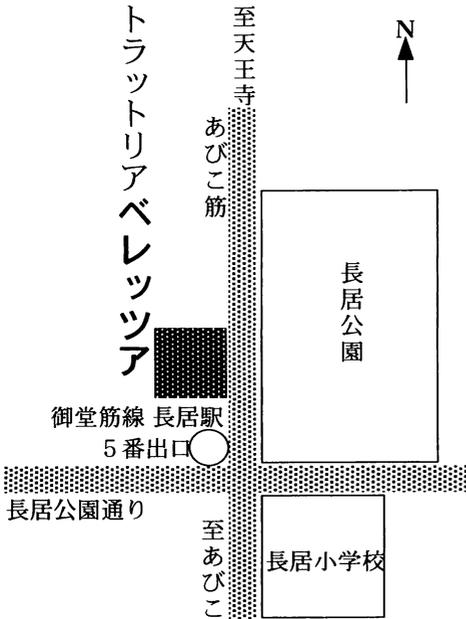
内容…お昼どき、
サロン・あべのは イタリアン。

集合時間…12月6日(土)午後1時
集合場所…長居身体障害者スポーツセンター
1Fエレベーター前

日時…12月6日(土)午後1時～
場所…イタリア料理
トラットリア ベレッツア (車いす
トイレなし)
大阪市住吉区长居東4-6-15
アイアイプラザ1F
TEL: 06-6695-5785
最寄り駅=地下鉄御堂筋線「長居」

会費…¥2500-
お飲物は各自負担をお願いします。

申し込み締め切り…11月30日
申し込み・問い合わせ先…
TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



○
誠実さや思いやりを持つ人としてのプライドは、どこに置き忘れたのだろう。精神科に入院体験のない人の再犯率はるかに高い。そのことにどう対応しているのだろうか。

冷たい人間社会になって、機械に支配された未来社会となつて、後悔はないのか。人間は恋愛も含め、どろどろと悩み、苦しみ、痛みを抱えて生きる生物。顔のように、人の性

格や趣向は、十人十色だ。それがおもしろい。

そんなあたりまえを、キヤッチする力をどこに忘れてきたのだろう。柔軟さとタフさと粘り強さとやさしさを、すり切れさせたくはない。そう、いつも心の中で意識していないと、大事な部分がすり切れていきそう。精神科病棟の体験者といると、ほんのりと時がたつていくのが好きだ。この世の中で置き忘れてきた大切なものを何かしら感じ取れる。いろいろな原因で食欲がでなくなったり、大便がでな

た大切なものを何かしら感じ取れる。いろいろな原因で食欲がでなくなったり、大便がでな

くなったり、ねむりにつくことができなくなったり、何も考える力がでなくなったりする。そんな時、からだは「やすみなさい」と痛みをサインを出している。そのサインを見抜き、休み時のわかまを身につけた、痛手をおった人のしなやかさ、その生きる姿が、歩みが、好きだ。とても、いとおいしい。生ま

れた時は、みんな、そんな弱さを持ちあわせていた。弱肉強食の競争に勝ち抜くことより、その人らしさを大事にしている人がすてき。

その人らしさを大事にしている人がすてき。



SALOON

随組ニュース

■「サロン淀川」12月の出会い

日時：12月21日(日)午後1時30分～4時
内容：冬の寒さを忘れて今年最後のサロン、
楽しみませんか

～クリスマスが近づくとなぜかワクワク
しませんか。マジックあり、もちろんピ
ンゴゲームもあります。サロンの仲間と
楽しい1日を過ごしましょう～

場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問合せ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6394-2900

E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・ひらの」12月の出会い

日時：12月13日(土)午前11時～
内容：おもちゃ図書館合同のクリスマス会

場所：「にこにこセンター」
大阪市平野区平野東2-1-30

会費：未定

問合せ先：安達 ☎090-7755-7899
にこにこセンター ☎06-6795-2525

■「サロン・にし」12月の出会い

日時：12月13日(土)午後1時30分～4時
内容：手品やおしゃべりでクリスマスを楽しもう!

場所：西区在宅サービスセンター6階ビューロース
大阪市西区新町4-5-14

会費：なし

問合せ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン「アイ」12月の出会い

日時：12月13日(土)午後1時30分～4時
内容：楽しい英語(海外旅行用)とクリスマス会

パネラー：伊藤祐美子氏

場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20

会費：なし

問合せ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー)
☎06-6712-3101

■「てくてく・すみよし」12月の出会い

日時：12月23日(火)午後1時～4時

内容：語り部を楽しもう

パネラー：林野信子氏、他2名

場所：あびこ職員会館3階
(エレベーター、車いすトイレあり)

会費：1000円

申し込み締め切り：12月15日(当日でも可)
申し込みと問合せ先：山本篤江 ☎06-6692-8411

■「サロン・つるみ」12月の出会い

日時：12月21日(日)午後1時30分～4時

内容：プチ干支「サル」飾り作りに挑戦

パネラー：「サロン・つるみ」スタッフ

場所：鶴見会館2階
大阪市鶴見区横堤5-5-51

会費：500円

問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
田村 ☎06-6913-7070

■「サロン・にしよど」12月の出会い

日時：12月20日(土)午後1時30～3時30

内容：クラリネット四重奏とクリスマスの会

ゲスト：クラリネット四重奏団「モンブラン」

場所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
大阪市西淀川区千船2-7-7

会費：なし

問合せ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎06-6494-0635

中本 ☎090-9864-9678

■「サロンいたみ」12月の出会い

日時：12月6日(土)午後2時～

内容：アルパのコンサート

場所：「伸幸苑」伊丹寺町6-150

会費：なし

問合せ先：砂脇 ☎0727-84-0057
(午後7時以降)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第208号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 「サロン・あべの」紙は、第1号より第208号までそろっています。
- (b) 「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 (☎06・6691・1028) まで。

寄りみち



今日はどうもちょっとやる気が出ないなあというとき、指揮者の岩城宏之さんは本番直前、誰もいない楽屋で「高見盛」をやると、これが見事に効くらしく、ぼくの特効薬と書いていました。編集に気が入らない、そんな自分にイライラしているとき、猛烈にやる気が出るらしいから、編集子も、秘かに「高見盛」をやってみようかな。けど、誰かに見られたら恥ずかしいからな・・・。(石)

<サロン・あべの>VOL.209 発行：平成15(2003)年11月15日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>